

平成29年度 川崎市総合教育センターの研究の推進

川崎市総合教育センター

1 今日の課題と川崎市総合教育センターの役割

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、社会が激しく変化する今日、「生きる力」の育成がより一層求められている。近年の我が国の教育の動向としては、平成25年6月に第2期教育振興基本計画が示された。ここでは4つの基本的方向性が示され、その1つとして「社会を生き抜く力の養成」が掲げられている。その後平成26年11月に、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について中央教育審議会に諮問がなされ、平成28年12月に中央教育審議会より「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」として答申が示された（以下「答申」と示す）。この「答申」では、「学校を変化する社会の中に位置付け、学校教育の中核となる教育課程について、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしなが、社会との連携・協働によりその実現を図っていく」という『社会に開かれた教育課程』を目指すべき理念として位置付ける」と示した。この「資質・能力」については、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の「三つの柱」で整理されている。

この「答申」を受け、平成29年3月には小学校・中学校の新学習指導要領、4月には特別支援学校小学部・中学部の新学習指導要領が公示された。新学習指導要領では、「学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努める」等の「社会に開かれた教育課程」の実現が重要になるとしている。また、各学校においては、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく」という「カリキュラム・マネジメント」に努めるものと示している。そして各教科等の指導において配慮するものとして、「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視する」等の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を示している。

本市においては、平成27年度より第2次川崎市教育振興基本計画である「かわさき教育プラン」をスタートさせた。「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」ことを基本理念とし、「変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと」「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと」を基本目標として定め、「自主・自立」「共生・協働」の2つのキーワードを示している。

その中で川崎市総合教育センターは、我が国の教育の動向を見据え、かわさき教育プランの目標の実現を目指しながら、各学校の教育活動の充実に関する支援、教職員の資質や指導力の向上等に向けた取組等を担っている。

2 川崎市総合教育センターの研究について

当センターでは昭和61年の設立以来、時代とともに変化し多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的として研究を行っている。現在は、次に示すような態様で研究を進めている。

- ・各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした、長期研究員と研究員による研究、指導主事と研究員による研究及びカウンセラー研究員による実践研究
- ・各教育研究所連盟等との共同研究
- ・教育活動及び児童生徒の実態に係る指導主事による調査・基礎研究
- ・様々な教育課題に係る施策研究

3 平成29年度の研究主題について

(1) 平成25年度から平成28年度の研究について

平成25年度から平成27年度の3年間、研究総括主題を「川崎の未来を創造する子どもの育成」とした。これは、教育基本法の前文において「豊かな創造性の育成や未来を切り拓く教育の確立」がうたわれていることや、かわさき教育プランにおいて「川崎に育つ子どもたちが将来の夢や目標を持って学習や活動に取り組み、川崎市に対する誇りと愛着を持てるようにすること」が述べられていることに基づく。また授業づくりを主体とする研究を推進するために、平成25年度、26年度の実践研究主題を「社会を生き抜く力を育てる授業づくり」とした。平成27年度は授業づくりの視点から教育課程全体に視点を広げ、実践研究主題を「社会を生き抜く資質・能力を育てる指導の在り方」とした。

平成28年度については、中央教育審議会の「論点整理」や「審議のまとめ」等の学習指導要領等の改訂の動向、かわさき教育プラン等を受け、それまで「研究総括主題」「実践研究主題」と二つ掲げていた研究主題を「実践研究主題」に一本化し、「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」と設定して、3本の長期研究員と研究員による研究、6本の指導主事と研究員による研究、4本の指導主事による研究、及びカウンセラー研究員による研究の計14本の研究を行った。

(2) 平成29年度の研究に求められるもの

これまで、教員の「授業力」や学校全体としての「指導力」の向上を目指して、当センターでは各種の研究・研修を行うとともに、各学校においても真摯な取組が行われてきた。また、平成27年度からは、かわさき教育プランの基本政策Iで示されている「キャリア在り方生き方教育」の取組等も行われている。それらの成果は、全国学力・学習状況調査や川崎市学習状況調査等の分析等から明らかになっているように、本市の子どもたちの学習状況の改善につながっていると考えられる。

例えば、「自分には、良いところがあると思いますか。」という質問について、同じ児童生徒が対象となる、平成27年度の川崎市学習状況調査における小学校5年生と中学校2年生と、平成28年度の全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の数値を比較する。平成27年度は「良いところがある」と回答した児童生徒が、小学校5年生が77.5%、中学校2年生が65.1%であったが、平成28年度は小学校6年生が79%、中学校3年生が69.1%と上昇している。全国調査が4月に行われ

ていることを考えると、「最高学年」になるに向けて、自己の役割を自覚するとともに、キャリア在り方生き方教育の三つの視点の内の一つである「自分をつくる」で示されている「自立の主体である自分自身に対して自信をもち、自己を高める」という点での成果が徐々に表れていると考えられる。また、小学校・中学校ともに「学校生活は、楽しいですか。」「勉強は、好きですか。」「勉強することは、大切なことだと思いますか。」の質問については、平成26年度から28年度にかけて、「楽しい」「すきだ」「大切だ」の数値が年々上昇している。学校での学びに対して肯定的な考えが増えていることは、学校現場での地道な取組の成果と言える。しかし、同調査において「勉強する一番の理由は何ですか。」という質問に対する中学校2年生の回答は、「将来の仕事に役に立つから」「受験に役に立つから」の数値が高く、「わかると楽しいから」「生活するのに役に立つから」の数値は高くはない。これは各教科等を「学ぶ意義」を実感しているか、そして「その教科ならではの学ぶ楽しさ」を味わっているか、という点で課題があることを示していると考えられる。

平成29年度はかわさき教育プラン第1期実施計画の3年目、最終年度となる。また、小中学校の学習指導要領の改訂が行われて移行期間に入る。このような年において、かわさき教育プランに基づいた教育を展開していく上で、これまでの取組を踏まえつつ、改訂された学習指導要領で示されたように、「児童（生徒）が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくこと」は大変重要になる。そして、子どもたちにとって「育成を目指す資質・能力」は何かを教職員がより明確に自覚し、その育成に向けた取組を継続していく必要がある。

これらのことを踏まえ、各学校のこれからの取組の範を示す意味でも、川崎市総合教育センターの研究では、研究主題で「これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を育成する」ことを示し、各研究において「育成を目指す資質・能力」を明確にしながら研究に取り組むという体制を作る必要がある。

（3）平成29年度の研究主題について

当センターの研究主題には近年「未来の創造」「生きる力の育成」「社会を生き抜く資質・能力」といった言葉が含まれている。これらを整理すると「これからの社会や未来を創る力の育成」という視点と、「社会を生き抜く力の育成」という視点の2つが込められていると言える。そのため、平成28年度は、これまでの取組を生かす意味でも、これら2つの視点を踏まえた「資質・能力を育成する」ことを明確にして、実践研究主題を「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」とし、各研究における「育成を目指す資質・能力」を明らかにして研究に取り組んだ。平成29年度については、各種調査結果等を生かし、子どもたちが自らのキャリア形成と「学ぶ意義」を関連付け、変化の激しい社会を生き抜く資質・能力を身に付けられるようにする視点を踏まえ、平成28年度に引き続き、実践研究主題を以下のようにする。

実践研究主題

未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成

川崎市総合教育センター 平成29年度 研究体系図

教育基本法 学校教育法

中央教育審議会 答申

新学習指導要領

「育成を目指す資質・能力」の明確化

かわさき教育プラン

基本理念

夢や希望を抱いて

生きがいのある人生を送るための礎を築く

基本目標キーワード

「自主・自立」「共生・協働」

川崎市総合教育センターの研究

実践研究

平成29年度 実践研究主題

未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成

- 各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究
- 各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究
 - ◎長期研究員と研究員による研究（5）
 - 小学校外国語：小学校外国語教育における文字に慣れ親しむ指導の工夫
 - キャリア在り方生き方教育：子どもの実態から重点化した基礎的・汎用的能力の育成を目指して
 - 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導：習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の捉え方に関する一考察
 - 情報教育：情報活用能力の育成における「チェックリスト」の活用に関する研究
 - 特別支援教育：自立活動と各教科等との関連を意識した授業づくり
 - ◎指導主事と研究員による研究（8）
 - 国語科：思いを豊かに表現し、書く楽しさを実感できる指導の工夫
 - 理科：主体的で深い学びにつながる導入の工夫
 - 技術・家庭科：生徒が主体的に取り組める技術・家庭科の授業づくり
 - 生活科・総合的な学習の時間：子どもの概念形成を促す教師の支援に係る手立て
 - 道徳：「特別の教科 道徳」の評価に関する研究
 - 健康教育：養護教諭が実践する食に関する指導
 - 高校教育：新しい時代に求められる資質・能力を育成するための指導法について
 - 学校教育相談：魅力ある学校づくりに向けたミドルリーダーとしての働きかけ
 - ◎カウンセラー研究員による研究：教育相談の在り方を探る
- 市内学校との共同研究

共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎指定都市教育研究所連盟
- ◎神奈川県教育研究所連盟
 - 研究大会での研究報告
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
 - カリキュラムセンター
 - ・新学習指導要領に基づく授業改善の手立て
 - 情報・視聴覚センター
 - ・情報活用能力チェックリストの在り方の研究
 - 教育相談センター
 - ・教育相談的な視点を生かした働きかけ
 - 特別支援教育センター
 - ・特別支援教育体制充実事業調査基礎研究